(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2011-125644
(P2011-125644A)
(43)公開日 平成23年6月30日(2011.6.30)

(51)Int.Cl.		F I	テーマコード（参考）
A47J 43/28	*(2006.01)*	A47J 43/28	4B053

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 （全 4 頁）

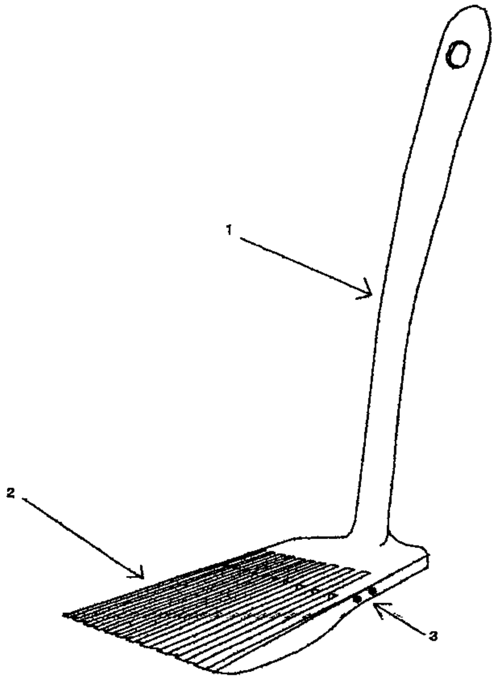
(21)出願番号 特願2009-299408(P2009-299408)
(22)出願日 平成21年12月15日(2009.12.15)

(71)出願人 510008983
多田 春男
佐賀県鳥栖市姫方町３３１番地３８
(72)発明者 多田 春男
佐賀県鳥栖市姫方町３３１番地３８

Fターム(参考) 4B053 AA03 CA04 CE10

(54)【発明の名称】スリット灰汁取り

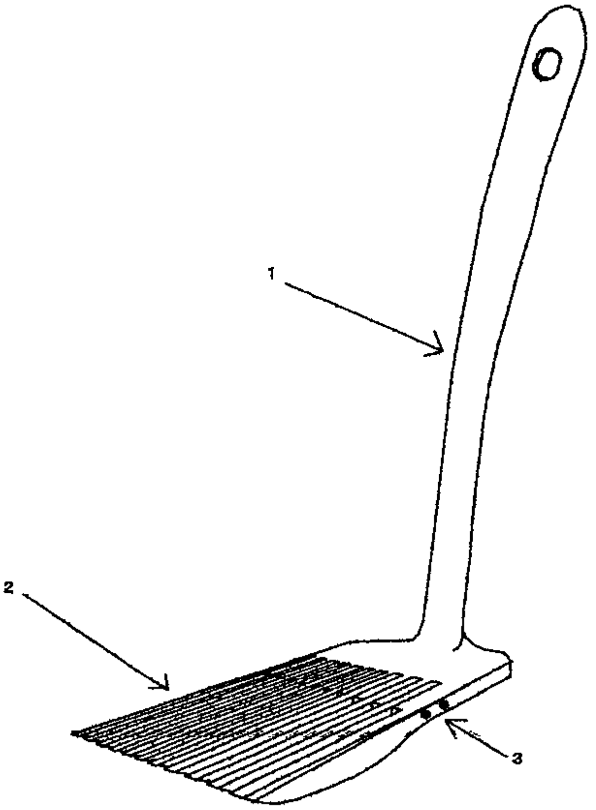
(57)【要約】
【課題】　本発明は表面張力による毛細管現象を利用して灰汁を板と板の隙間に効率よく吸い取り除去することができるようにすることを得るにあたる。
【解決の手段】　設定された柄と先端部が任意枚数の板をわずかな隙間を設けて垂直に連続して櫛状に並べた柄と先端の構造をもつ一体あるいは固定的に取り付けられた柄とからなる灰汁取りで表面張力による毛細管現象を利用して先端部に設けられた板のそれぞれの隙間に灰汁を吸い上げ保持し除去することができる。
【選択図】図１



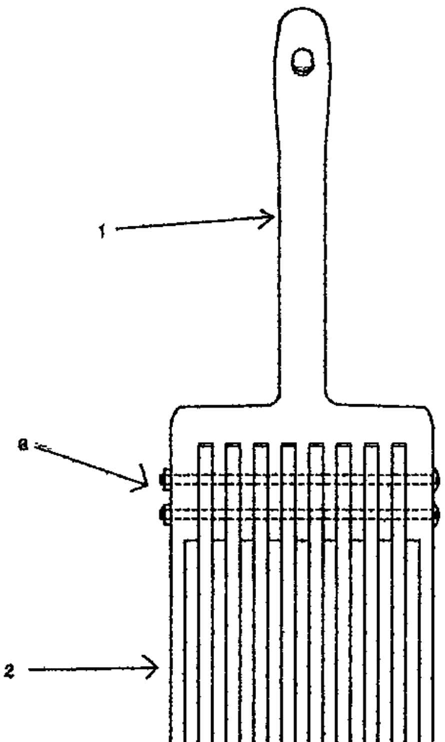
【特許請求の範囲】
【請求項１】
あらかじめ設定された柄と一体もしくは固定的に取り付けられた柄と先端部に任意枚数の板を０．５～１．２ｍｍの隙間を設け垂直に連続して櫛状に並べ形成された形状を特徴とする灰汁取り。
【請求項２】
先端部に設けられた櫛状の板と板の隙間に表面張力による毛細管現象を利用して灰汁を吸い上げ保持し除去することができることを特徴とする灰汁取り。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、あらかじめ設定された柄と一体もしくは固定的に取り付けられた柄の先端に円周の一部をともなった形状の板を任意の枚数（８～１５枚）だけ０．５～１．２ｍｍの隙間を設け垂直に連続して櫛状に並べた形状にし、表面張力による毛細管現象を利用して板と板の隙間に灰汁を吸い上げ保持し除去するようにした灰汁取りに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来、網で濾すもの、お玉の裏に突起を設け灰汁の表面張力で付着させるものや、繊維や紙状のものに灰汁を吸収させるものがあった。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
これは、次のような欠点があった。
お玉の裏に突起を設けたものは灰汁を上から押し付け付着するため、灰汁が煮汁に溶け込むこともあり、灰汁を一度に吸着するには十分でなかった。繊維状や紙状のものは消耗品で使用するたびに廃棄物が発生していた。網式は灰汁で網の目が詰まり洗い流すのが面倒であった。
【課題を解決するための手段】
【０００４】
柄の先端に円周の一部をともなった形状の板を任意枚数だけ０．５～１．２ｍｍの隙間を設け、櫛状に垂直に並べた構造にしたものである。
【発明の効果】
【０００５】
板と板を任意（０．５～１．２ｍｍ）の隙間を設けて櫛状に垂直に並べることで灰汁にわずかに触れるだけで毛細管現象により灰汁が吸い上げられ除去できる。
【０００６】
毛細管現象を利用するので板の表面積に比例して容積が大きく出来できるので一度に大量の灰汁が触れるだけで吸い取ることが出来る。
【０００７】
毛細管現象を利用することで灰汁に触れるだけで吸い上げられるので灰汁が煮汁に溶け込むこと無く除去できる。
【０００８】
吸い取った灰汁は水に浸けるか水を流すだけで簡単に除去できる。
【発明を実施するための最良の形態】
【０００９】
以下、本発明を実施するための最良の形態について説明する。
あらかじめ設定された柄と一体もしくは固定的に取り付けられた柄の先端に円周の一部をともなう形状の板を任意の隙間（０．５～１．２ｍｍ）を設け８～１５枚必要枚数櫛状に垂直に連続して並べた形態のものである。本発明は、以上のような構造である。
【図面の簡単な説明】

【００１０】
【図１】　本発明の斜視図である。
【図２】　本発明の上面図である。
【図３】　本発明の側面図である。
【図４】　本発明の灰汁を吸い上げ除去する実施図である。
【符号の説明】
【００１１】
1　あらかじめ設定された柄もしくは固定的に取り付けられた柄部
2　円周の一部をともなう形状の板を櫛状にならべた先端のスリット部
3　柄と固定する取り付け部

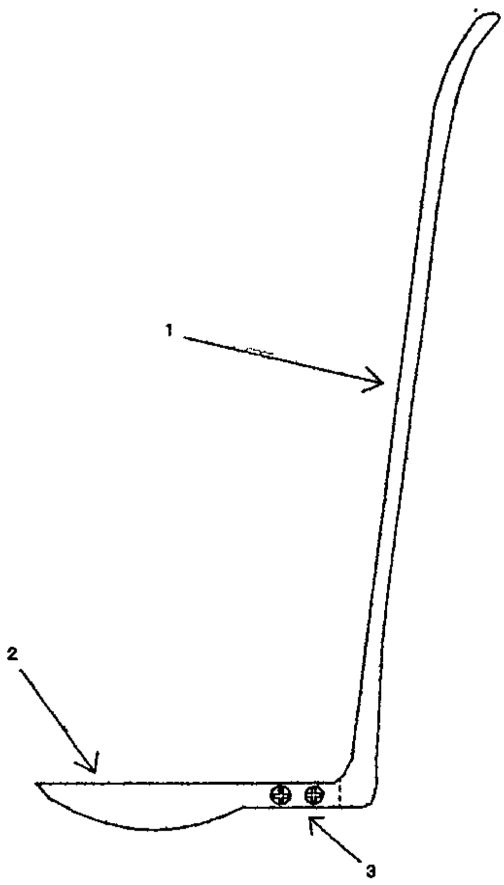
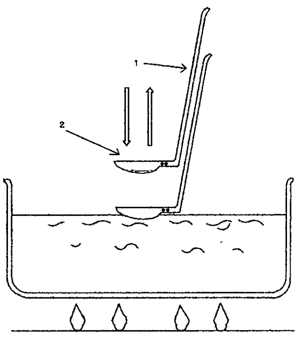
【図１】



【図２】



【図３】



【図４】